

平成 23 年度事業報告書

特定非営利活動法人スバ・ランカ協会

1 事業実施の概略

特定非営利活動法人スバ・ランカ協会は、スリランカと日本両国の相互理解を促すこと、スリランカ人の抱える問題の改善・解決を図ることを目的に、下記の事業を実施します。具体的には、本法人の定款第5条第1項の事業として、スリランカよらず相談窓口事業、スリランカ人を対象とした教育振興、人材育成及び雇用促進事業、日本語・日本文化普及、教育・技術指導等に係るボランティア支援推進事業、スリランカの物産の紹介と普及事業を実施し、さらに目的にある相互理解の促進事業として、スリランカ・日本「架け橋」事業を展開した。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

<ア> スリランカよらず相談窓口事業

(ア) 事業内容

会員及びその関係者からのスリランカに関する相談を受け、情報を提供し、問題解決の方法を提示し、あるいは問題を解決した。

- ① 立命館大学のボランティア・サークル、「自立のための道具の会・京都」(<http://tfsr-kyoto.jimdo.com/>)がスリランカ・バラゴダのインド・タミル人小学校を初め、コロンボ周辺のシンハラ人小学校を訪れ、ゴミ山の問題に絡めて授業を行い、文房具を配布した。また、教育事情に関して継続的な調査を実施した。彼らに現地情報を提供し、側面的支援を行った。
- ② スリランカの上座仏教に関心を持ち、スリランカ僧侶になりたいとの希望を持つ日本人青年をサポートした。スバ・ランカわくわく文化講座に関心を持って聞きに見えた名古屋の青年で6月にスリランカに渡った。僧院学校で学ぶために学生ビザを取得し、数年はスリランカに滞在し、上座仏教の勉強をするとのことである。
- ③ スリランカの大学生を対象に24時間検尿を実施し、青年の栄養状態を明らかにする武庫川女子大学国際健康開発研究所(所長家森幸男教授)のプロジェクトをサポートした。さらに、健康大臣との面談をセッティングした。その結果、スリランカ人の食生活改善に関するプロジェクトが、武庫川女子大学国際健康開発研究所の協力を得て、国を挙げて行われることになった。2012年から始動する。
- ④ スリランカの物産に関するフェアトレードを实践されている藤原響子さんがスバ・ランカ協会の活動、特にバナナバッグについて関心を持たれ、サバラガムワ大学を訪問された。今後の取引の可能性について話し合った。藤原さんのサイトは、<http://punchi.jp/> と <http://woodplusshop.blogspot.com/> である。
- ⑤ 佐賀大学経済学部ラトゥナーヤケ教授の調査団がバナナ手漉き紙製造協同組合を訪れ、聞き取りをするのをサポートした。バナナバッグの販売促進に努力した。

(イ) 実施時期

- ① 3月14～30日
- ② 3月30日、4月4日、4月20日、5月4日、5月17日、5月25日、6月2日～5日
- ③ 7月11日、8月26日
- ④ 8月11日
- ⑤ 9月10日

(ウ) 支出 ①～⑤を一括して、9,500円

(内訳)電話代 8,000円、交通費 1,500円

<イ> スリランカの公共トイレ・井戸の再建事業

(ア) 事業内容

① 幼稚園における汚水処理施設付きトイレの建設： モリコロ基金から、79万円の助成金を得て、幼稚園において汚水処理付きトイレを建設した。現地コーディネーターのチャミット氏が行ったトイレが緊急に必要であり、保護者の労力奉仕が得られる幼稚園調査に基づき、次の7つの幼稚園を選び、そこに汚水処理付トイレを建築した。7つの幼稚園の名前と児童数等は次の通りである。マハマーヤー（ガリガムワ村；25名）、シュリーボーディ（アラワラ村；16名）、ランタル（ダンデニヤ村；20名）、プブドゥ（ウェーラガラ村；12名）、シギティ（ウェヘラガラ村；14名）、ムトゥリヤンディ（ハッラワ村12名）、プブドゥ（マルマドゥワ村；10名）

② 大学校における給水システムの再建： 「東南アジアに学校を作る会」（和歌山県宝珠寺）からの寄付金30万円をもとに、ガラピタマダ村の大学校における井戸を含む給水システムを再建した。

(イ) 実施時期

- ① 5月～12月
- ② 9月～11月

(ウ) 従事者（大工を除き無償ボランティアとして対応）

- ① 協会会長、スリランカ事務所代表、現地コーディネーターとその協力員5名、各園の園長兼教諭7名、保護者66名、大工1名
- ② 協会会長、スリランカ事務所代表、現地コーディネーターとその協力員3名、学校長と副校長及び教務主任

(オ) 支出 1,284,187円

- ① 984,195円

（内訳）資材費668,742円、労賃317,565円、ガソリン代17,825円、電話代5,011円

- ② 299,992円

（内訳）資材費191,421円、労賃60,950円、ガソリン代19,621円、電話代5,000円
コーディネート料25,000円

(カ) 収入 0円

- ①②ともに 0円

<ウ> スリランカ人を対象とした教育振興、人材育成及び雇用促進事業

(ア) 事業内容

① 人材育成・雇用促進事業：スバ・ランカ農園の維持管理を行い、と同時に、新たに植樹を行い、カシューナッツ栽培を促進した。しかし、カシューナッツの栽培だけでは、農園管理者の給料を確保することができないことが判明した。そのために新たに3エーカーの土地を無償で借り受け、やし栽培を開始した。このやし畑の整備に現地の人々を雇用した。周辺農家に呼びかけ、カシューナッツ栽培協働組合を作る計画であったが、実現できなかった。今のところ、農園の維持管理だけで精一杯である。

② 教育振興事業：「世界健康フォーラム」からの寄付金10万円をもとに、ランムトゥ児童発展センターのデイケア・センターにおける給食設備を供与した。

(イ) 実施時期

- ① 7～11月
- ② 9月

(ウ) 従事者(無償ボランティアとして対応)

- ① 協会会長、スリランカ事務所代表、現地農園管理者1名、現地農民5名
- ② スリランカ事務所代表、ランムトゥセンター長

(エ) 支出 504,350円

- ① 404,350円

(内訳) ガソリン代 15,000円 人件費 150,000円 井戸建設等整備費 230,000円 やし苗 7,350円(42円×175本), 電話代 2,000円

- ② 100,000円

(内訳) 備品及び消耗品: 60,000円、冷蔵庫: 40,000円

(オ) 収入 0円

- ①②ともに 0円

<エ> 日本語・日本文化普及、教育・技術指導等に係るボランティア支援推進事業

(ア) 事業内容

- ① 日本語クラスの開設

サバラガムワ大学の近隣にあるバラゴダ市のタミル中央学校とその校長Mr. シヤンムガナタンと会長の大岩碩が共同管理する Japan and Sri Lanka Combined College において日本語クラスを開設した。

- ② 国語・漢和辞典等の送付と贈呈

無償供与された163冊の辞書類をサバラガムワ大学日本研究専攻の学生及び副専攻で日本を学ぶの学生に贈呈した。

(イ) 実施時期

- ① 7月～9月
- ② 11月15日

(ウ) 従事者(無償ボランティアとして対応)

- ① 協会会長、サバラガムワ大学日本学コース教員2名、同コース学生1名
- ② 協会会長、サバラガムワ大学日本学コース教員4名、コース職員1名

(エ) 支出 35,500円

- ① 8,000円

(内訳) 講師謝礼 7,500円, 電話代 500円

- ② 27,500円

(内訳) スリランカへの輸送費 27,500円

(オ) 収入 0円

- ①②ともに 0円

<オ> スリランカの物産の紹介と普及事業

(ア) 事業内容

① ブロークン・オレンジペコーの配布

スリランカの紅茶文化を紹介するとともに、時と場合によっては、会員からの要望により、試供品として、創業 1841 年のマックウッド社のブロークン・オレンジペコーを配布し、紅茶文化の普及、促進を図った。

② カシューナッツの配布

カシューナッツのオーナーと会員からの要望により、スバ・ランカ農園で収穫されたカシューナッツを、随時、試供品として配布した。

③ アーユルヴェーダー・オイルの紹介

アーユルヴェーダー（インド医学）のオイルを缶詰めにして郵送できることが判り、日本でアーユルヴェーダー治療に係わっている方々にオイルを紹介した。

(イ) 実施時期 3月～12月

(ウ) 従事者（無償ボランティアとして対応） 正会員 2名

(エ) 支出 ①～③を一括して 54,860円

(内訳) 紅茶 100箱代金 18,000円、カシューナッツ 44キロ殻剥き代 6,750円、会員及びカシューナッツ・オーナーへの郵送費 19,520円、事務消耗品費 6,590円、電話代 4000円

(オ) 収入 0円

<カ> スリランカ・日本「架け橋」事業

(ア) 事業内容

① わくわくスリランカ文化講座

第1回 3月26日 スリランカの仏教について 講師：大岩碩 参加者：16名
第2回 7月3日 スリランカカレーを楽しむ会 講師：ジャガット・クマール
企画：廣間えり子、小林裕幸 参加者：10名

② シンハラ語講座

副会長新海啓一が講師となり、4月に、4回のシンハラ語講座を開催した。
参加者：平均 15名

③ スリランカ・ツアー

会員の近藤譲治さんが企画したスリランカ・ツアーに協力した。スバ・ランカ協会スリランカ事務所のあるヴィディヤナンダ僧院において旅の安全を祈願する読経を行い、旅に出た。これは他のツアーにはない企画であった。また、ハプタレーのダンベータンナ紅茶工場の見学をセッティングした。

(イ) 実施時期

①3月26日、7月3日 ②4月2日、10日、17日、24日 ③7月26日～8月1日

(ウ) 従事者（無償ボランティアとして対応）

① 正会員 3名 ② 正会員 3名 ③ 協会会長

(エ) 支出 ①～③を一括して、22,300円

(内訳) 施設利用費 5,500円、資料代等 4,800円、材料費 12,000円

(オ) 収入 0円

(1) 通常総会

(ア) 開催日時及び場所 平成 23 年 1 月 23 日 13 : 30 ~ 16 : 30 名古屋市女性会館

(イ) 議題 ①平成 22 年事業報告の承認について②平成 22 年収支決算の承認について
③平成 23 年事業計画について ④その他

(2) 理事会

ア 第 1 回理事会

(ア) 開催日時及び場所 平成 23 年 3 月 26 日 16 : 00 ~ 17 : 00 名古屋市女性会館

(イ) 議題 ①わくわくスリランカ文化講座第二回 ②東日本大震災支援 ③その他

イ 第 2 回理事会

(ア) 開催日時及び場所 平成 23 年 4 月 2 日 15 : 30 ~ 16 : 45 名古屋市女性会館

(イ) 議題 ① わくわくスリランカ文化講座の第二回、カレー教室 ②その他

ウ 第 3 回理事会

(ア) 開催日時及び場所 平成 23 年 12 月 20 日 15 : 00 ~ 18 : 00 金城学院大学サテライト

(イ) 議題 ①平成 23 年事業報告について ②平成 24 年事業計画について ③その他